

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272400490		
法人名	社会福祉法人奥津軽会		
事業所名	グループホーム八幡荘		
所在地	〒037-0305 青森県北津軽郡中泊町大字中里字亀山434番地1		
自己評価作成日	令和4年9月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	令和4年11月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

年間の行事を通じて利用者様にその季節に合った行事を取り入れています。行事以外でも担当職員が利用者様の話を聞いたり個別ケアに取り組み利用者様と職員の信頼関係を築き、利用者様が満足できるよう支援しています。又2か月に1回八幡荘たよりを発行し、ご家族様との連結に力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

昨年町役場跡地に移転し、付近には町役場・商工会・銀行等がある。また、窓からは駅が望め到着する列車や乗降する方々を利用者が一緒に見ることで会話が弾んでいる。コロナ禍で外出が制限されているが、受診後には希望があれば自宅周辺を回ったり、買い物代行が行われている。また、比較的高い場所に立地していることから町内の夏祭り、花火やねぶた見学を実施し、地域と離れない関係を維持している。家族との面会は窓越しではあるが継続しており、野菜等の差し入れもあり食事に取り入れている。利用者は調理の下拵えや配膳準備や片付けを職員と一緒にったりカラオケや脳トレを取り入れたレクリエーション等を行うことで生活の質が落ちないように工夫している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆっくりとふれあい、にこにこ笑顔でやさしく「あ～安心」を介護理念として揚げ職員間で実践につなげています。	理念を事務室内に掲示し、朝夕の申し送りや月1回の事業所会議等で共有し、日常での介護場面で常に意識するよう実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスで現在地域との交流は控えているが以前は奥津軽会夏祭りを行い参加を呼びかけ交流を行っていた。	コロナ禍で事業所内に招くことが難しく、地域との交流も制限しているが、事業所から見える地域の夏祭り花火やねぶたの運行を室内から見学することで地域から離れない関係を維持している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	天気の良いときは、外に散歩し地域の方に挨拶をして理解や支援を求めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議の資料を役場・地域包括センターに配布して意見等があればそれを課題とし、サービス向上に繋げていくようにしています。	2か月に1回書面開催とし、入居状況や行事実施状況等の報告を行っている。これまで特に意見等は寄せられていないが、課題や要望があれば取り入れサービス向上につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町で行われている地域ケア推進会議に参加し、他事業所職員や行政の方との交流を図り、協力関係を築いています。	様々な研修案内は地域包括支援センター等から届いているが、コロナ禍で参加は難しい状況にある。相談事は電話やメールを活用し返答頂いており、研修会には今後の感染状況を見ながら出来るだけ参加できるよう務める。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員の心得に「拘束・抑制のないケア」をあげ、身体拘束についてのマニュアルを職員が観覧できるように設置し、全職員が身体拘束ゼロに努めています。また玄関は施錠せず出入り自由になっています。	マニュアルを作成し、職員がいつでも確認できるように設置している。また、適切に支援されているか年2回の研修会を行うことで自分の行動が拘束に当たらないか振り返りも行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修会にて「身体拘束について」の勉強会を開き全職員に周知。また身体拘束マニュアルをいつでも見られるようにして身体拘束に努めています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修会を開き自立支援事業や青年後見制度について勉強会を開き、理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に利用契約書に沿って内容を説明し、利用者様または家族様に理解していただき同意を得たうえで契約しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設の事務所の窓口に意見箱を設置していつでも意見があれば聞き入れる体制を取っています。また来荘時家族様に近況報告や状態報告をして今後の支援方法や家族様の要望など受け入れます。	家族からの要望は月1回の利用料支払い時や電話等で近況報告を行い確認している。利用者からも日頃の会話や行動から確認し職員間で共有し、申し送り記載や事業所会議でも取り上げサービス向上につなげている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	決定事項や行事、入所時の受け入れなどについて、その都度話し合いの場を設け意見交換しています。	管理者は職員からの要望を日頃から確認し、月1回の事業所会議で話し合いの機会を持つことで改善に取り組んでいる。法人理事長も事業所を回りながら要望等を確認している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員が向上心を持って業務に取り組めるよう各自役割を持ち、就業できるような環境づくりに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修の年間計画を立て、スキルアップできるように努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在新型コロナウイルス感染拡大の状況を考慮しグループホーム交流会も開催していません。地域包括運営推進会議等開催時に参加して同業者との交流を図っています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の状態観察を行い、コミュニケーションを取りながら、不安や要望を聞き、ケアプランに取り入れ、毎日のサービス提供に取り組んでいます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族から必要な情報を得てアセスメントし、ケアプランに取り入れ、家族の協力を得ながら一緒に支援していけるよう、密に連絡し信頼関係に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状況に合わせ、出来ることや出来ないことを把握し家族と相談しながらサービス提供に努めます。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の得意分野で力を発揮していただけるように、食事の準備を職員と行い、達成感を共感できる関係づくりに努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様来荘時、ご本人様の状況説明や病状説明をしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様、家族様の要望があれば職員が送迎していましたが現在は新型コロナウイルス感染予防のため控えています。	コロナ禍で外出を制限しており、地域との交流が難しい状況にある。事業所から地域の夏祭り、花火やねぶた運行の見学も行っている。希望により病院帰り時に自宅周辺も回ること地域とのつながりを維持している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の性格、人間関係を把握し、利用者様同士の良い関係づくり、環境づくりに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設サービス終了後も、必要に応じて他の介護施設の紹介や、在宅の支援方法など相談や支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様担当が中心になり、ケース会議で利用者様の意向、希望を把握して要望などに即対応できる体制づくりに努めています。	担当者が中心となり利用者からの意見や希望を確認し、家族へ内容を報告している。申し送りだけでなく月1回の事業所会議でも報告共有し、職員間で統一した支援が出来るよう配慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様、家族様よりこれまでの生活歴、生活環境等の情報収集に努め、サービスの内容に取り入れて、経過についてケース会議にて話し合っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の日常生活を状態観察して、個別に日誌入力し個々の生活リズムの把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様、家族様の要望を聞き、1ヶ月のケース会議で出された課題について、職員の意見を計画に反映させ、ケアプランを作成して評価しています。	担当職員が家族・利用者から要望を確認し、担当者会議を実施して作成したサービス計画を家族・利用者へ報告している。モニタリングと評価を継続し見直しを行うことでより個々の希望に即したプランへ反映されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌(各自のケース)にパソコン入力し管理者が1ヶ月に1度評価を行い、介護計画の見直しに反映させています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院への通院、買い物等の外出は、利用者様または家族様の要望を取り入れ、いつでも対応できる体制をとり、柔軟なサービスを提供しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行政などの意見交換し取り組んでいます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様、家族様の希望する医療機関に受診し、かかりつけ医と事業所との情報交換、または検査の時は家族様に同伴を依頼するなど、家族様も含め、連絡を密にし支援しています。	家族・利用者と確認しかかりつけ医を継続する場合もあるが、理事長が医師であり医療連携を進めるうえで嘱託医への変更の理解を求めている。家族が受診同行する場合もあるが職員が支援した場合は受診後家族へ内容を報告し連携している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人内の特別養護老人ホームの看護師と連携を図り、情報を共有して、利用者様の健康管理等の支援に努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時はお互いに介護サマリーを提供し、情報を共有して退院後も生活がスムーズに行えるようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期のあり方について、事業所でできる範囲を医療機関も含め家族様と話し合い、相談し対応しています。	見取りは行われていないが、入居説明時に重度化や終末期について説明し同意を得ている。事業所での生活が難しい状況となった場合は早い段階で家族へ説明し住み替え等の支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルとして作成して職員間に周知しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策については、1年に2回(昼夜想定)火災避難訓練を行い、消火訓練など行っている。	火災避難訓練を年2回実施している。冬季の停電の場合灯油ストーブも準備し、また、数日間の食料備蓄も行うことで安心して生活が継続できるよう備えている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の性格や特性を職員全員が把握し、失禁時や汚染時にはさり気なく声掛けしてトイレ誘導するなど、プライバシーを損なわない声掛けや対応を心掛けている。	プライバシー保護に関し入居時に保護説明を行い利用についても同意を得ている。介護場面で職員の声掛け等、不適切な状況があった場合は管理者が状況確認を行い、人格を尊重した支援が行えるよう指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が自分の希望や要望が言いやすい雰囲気作りに努め、本人の力量に応じて自己決定できるように働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の生活は施設側で1日の流れとして決まっていますが利用者様個人の体調や精神状態に合わせ、個人のペースに合わせた柔軟な対応に努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の整容や身だしなみは普段からおしゃれに気配りを心掛け化粧のできる利用者様は化粧をして普段過ごされている。普段も洋服におしゃれを取り入れ職員が気配りをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の前のテーブル拭きやお茶だしや後片づけの下膳は利用者様と一緒に、昼食は利用者様と職員と一緒に会話しながら食べています。	以前は利用者と職員と一緒に食事を摂っていたが、感染予防のため職員の見守りへ変更している。利用者は下拵えや食事前準備・お茶出し等を職員と一緒にやっている。住民からの差し入れもあり副食やおやつへ活用している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材を委託している業者様から1ヶ月のメニューにカロリー計算が記入されており食後は職員が摂取量を確か利用者様の摂取状況をパソコンに入力し摂取量を確認している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケア口腔うがいを実施し夜間は義歯洗浄を行い、口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し声掛けや誘導を行い力量に応じてトイレの排泄、自立支援に努めています。	排泄行為は比較的自立した方が多いが、排泄誘導した場合は適切に記録媒体へ入力し、排泄パターンを確認し、失禁等につながらないよう尊厳に配慮した対応を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	おやつを提供でヤクルト製品(ヨーグルトやジョア)を提供している。パソコンに排便パターンを記録して下剤等の調整をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴日(週3回)や入浴時間は施設側で決めています。先に入浴したい利用者様や最後にゆっくり入浴したい利用者様の要望に応え順番を変えています。	週3回の入浴を基本としているが、予定日以外でも希望により対応できるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動時間に毎日のラジオ体操や余暇活動を取り入れて夜間安眠につながるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の説明書は各利用者様もケースに保管し服薬変更時には申し送りや診療記録に残し全職員が周知しています。又内服薬変更による症状の変化(活気・意欲低下など)には、医療機関のドクターに報告や相談しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者さま一人一人に合った支援を行っており気分転換に行事食で昼食お寿司を食べたり職員が利用者様に好きなおやつを聞いて購入しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	新型コロナウイルス感染予防で外出や散歩は控えています。	コロナ禍で外出を制限しているが、感染状況や天候を見ながら屋外の散歩を行うことで気分転換を図っている。また、受診の帰り時希望があれば自宅周辺を回りながら買い物代行も行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様本人や家族様が希望される場合には、本人の所持金として本人に持たせ買い物の際には本人所持金から支払いをして頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設の電話の利用は、いつでも可能であり、手紙についても本人の希望であれば代筆をするなどの支援をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の場では、みんなでくつろげるように照明の明るさ、テレビの音量に配慮しています。また季節ごとに壁面に模様替えを行い、居心地の良い空間づくりに努めています。	明るい空間で空調も完備され、利用者手作りの物や季節に合わせた飾りつけが行われている。廊下には地域で働く方々の写真が飾られており、地域で生活して見てきた景色がいつでも感じられるよう配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間に長椅子を設置したり廊下に長椅子を設置し利用者様同士で自由に談話できるスペースを確保し、自由に使用して頂けるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の使い慣れた物、馴染みのある物を持参して頂けるように家族にも働きかけ、利用者様が安心して日常生活が送れるように配慮しています。	ベッド・テレビ等は事業所で準備している。日頃使い慣れたものや家族の写真・手作り品等の馴染みの持ち込みもあり安心して生活できるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関、トイレ、廊下に手すりを取り付け安全に立上がりや自立歩行ができる世に環境面でも配慮している。		